

平成 27 年 7 月 13 日

静岡県知事 川勝 平太 様

ふじのくに県議団  
会長 林 芳久仁

## 「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生 長期人口ビジョン・総合戦略（素案）」に対する提言

場の力を活かした「富国有徳の理想郷“ふじのくに”」づくりの推進に向け、先頭に立って取り組む川勝知事のトップリーダーとしての姿勢を、私たちは高く評価し、さらなる前進を望んでいます。

その一方、本県は、平成 26 年の人口移動で、転出超過 7240 人、47 都道府県中 2 年連続ワースト 2 位となり、さらに合計特殊出生率も 1.50 と一昨年を下回る結果となりました。

このような本格的な人口減少社会を迎え、私たちはこれまでに無い危機感を持って、政策を総動員し、県政に臨まなければいけない状況となっています。

こうした中、今回示された「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン（素案）」並びに「同総合戦略（素案）」は、人口減少社会に立ち向かっていく県の今後の羅針盤となるものです。

「人口ビジョン」の目標は将来的に人口 300 万人弱の水準を維持することとし、そのための目標指標として「合計特殊出生率 2」、「人口移動 転入超過」を掲げています。非常に高いハードルですが、何としてもこれを達成しなければいけません。

しかし、残念ながら「総合戦略」は「総合計画後期アクションプラン」の焼き直しの印象が強く、「合計特殊出生率 2」「転入超過」を実現するための覚悟が十分に伝わってまいりません。

「合計特殊出生率 2」「転入超過」に強くこだわり、これを実現するための戦略計画となるよう、抜本的な見直しを検討していただきますよう要請いたします。

<記>

- これまでの施策の継続ではなく、抜本的な施策の見直しを行うこと。
- 「出生数」「県外からの企業誘致事業所数」「Uターン就職者数」「移住者数」など直接効果がある具体的な指標を重点目標に設定し、チェック体制を強化すること。
- 合計特殊出生率を現在の 1.5 から倍の 3.0 にするくらいの政策を実施しないと 2.07 には到達しない。周産期前後の環境整備だけでなく、保育料や子どもが独立するまでの教育費、住宅など子育て世帯（特に多子世帯）の経済的負担を軽減するための直接的な財政支援等を検討し、実施可能なものから導入すること。  
また、これらは抜本対策を講じたとしても即効性はないため、「2020 年に 2.07」については、国の長期ビジョンなどを参考に現実的な年次目標とすること。
- 社会減対策を強化し、早急に進めること。  
特に首都圏からの本社移転などを含め企業誘致の行動目標を設定し、強力に推進すること。
- 市町総合戦略の策定を支援し、県の総合戦略との整合を図ること。  
特に地域圏別戦略と市町の戦略について協議を深めること。
- 施策検討のポイントはタテ割り行政の排除、地域間連携、官民連携、民間活用等であり、それぞれの戦略目標をどういうポイントで進めるかをわかりやすくまとめること。
- 各部局が掲げている KPI 指標が「合計特殊出生率 2」「転入超過」等にごどのようにつながっているのか、明確に位置づけること。  
また毎年同じ目標数値となっている指標については、メリハリをつけ年度ごとの工程表を作成すること。

以上